



百万石蝶談会



翔如



NO. 90 JUNE 1991

イチモンジチョウとアサマイチモンジの蛹の体色について

野 中 勝

イチモンジチョウ (*Limenitis camilla*) とアサマイチモンジ (*Limenitis glorifica*) は、成虫、幼虫と同様、蛹も酷似している、原色日本蝶類幼虫大図鑑 vol I (1974年、保育社)、原色日本蝶類生態図鑑 II (1983年、保育社) 共に頭部の耳状突起の大きさを種の区別点として挙げており、色彩による識別は困難であることを暗示している。ところが昨年、この両種を20頭近く飼育羽化させたところ、種によって蛹の体色が完全に2つに分かれていたので報告する。

1990年9月16日に、石川県鶴来町白山の林縁の灌木にからんだスイカズラから両種のものと思える卵、若齢幼虫を採集し、スイカズラを与えて飼育した。その結果10月15日から10月31日にかけて、イチモンジチョウ3♂5♀、アサマイチモンジ6♂5♀が羽化した。蛹の体色は例外なくイチモンジチョウが褐色

味を帯びた比較的濃い緑色で、アサマイチモンジは美しい淡緑色であった。アサマイチモンジの色彩は安定しており、イチモンジチョウの方は個体によりやや濃淡の差が認められたが、アサマイチモンジと紛らわしいものはなかった。

ここで両種の蛹は色彩によって区別できると結論したいところであるが、前出の幼虫大図鑑の写真ではイチモンジチョウの蛹がここに示したアサマイチモンジと同じ様な美しい淡緑色をしている(生態図鑑の方にはここに載せたのと同じ傾向の体色の蛹が載っている)。従ってイチモンジチョウの蛹には両方の色彩型が存在する事になるが、アサマイチモンジにも両型が有るのか、両型の出現頻度はどの程度で、それは季節型、地理的な要因などに支配されているのかといった問題は、これまで検討されていないように思える。

そこで会員諸氏に、飼育によ



(左:イチモンジチョウ、右:アサマイチモンジ)

これらの調査への協力をお願いしたい。スイカズラさえ識別できれば、本種の採幼は比較的やさしく、飼育にいたってはスイカズラがどこにでもあり、水あげが良いこともあって極めて容易である。各地でのデータが集積されれば、石川県内での両種の分布状況も明らかになるので、一石二鳥と思われる。最後にイチモンジチョウの採幼の手ほどきをして下さった松井正人氏に感謝する。

それぞれに見る蛹の体色

	イチモンジチョウ	アサマイチモンジ
幼虫図鑑	美しい淡緑色	美しい淡緑色
生態図鑑	褐色味を帯びた濃い緑色	美しい淡緑色
飼育結果	褐色味を帯びた濃い緑色	美しい淡緑色

《のなか まさる 〒920 金沢市末町14-70-2》

金沢城址でミスジチョウの越冬幼虫を確認

松井正人

石川県では山地性が強いと思われるミスジチョウを、市街地に取り囲まれた金沢城址で確認したので報告する。

ミスジチョウ 1991年3月16日 金沢城址 1幼 松井正人

他県では似たような環境の神社や公園で発生することは知られているが、石川県ではこれまで山地の溪谷が主な確認場所で、ミスジチョウは山地の蝶とされていた。

しかしながら平地（標高100m以下）に記録が無い訳でもなく、圧倒的に多い山地とは対照的に3例が知られている。これは「ミスジチョウは山地の蝶」との思い込みから、平地での調査がほとんど行なわれず、その結果として少ないと思われていたのかも知れない。本来は平地にも分布し、平地での調査が増えるに従って記録も増加する事が考えられる。以下に平地の記録を載せたので、今後の参考にしてもらいたい。

数少ない平地（標高100m以下）の記録

1977年6月19日	金沢市山科	1♂	松本和馬	(1)
1985年5月31日	小松市原	1頭	中山佐一郎	(2)
1991年3月9日	金沢市角間	1幼	松井正人	

1) 松本和馬(1977): 翔(10)

2) 中山佐一郎(1985): 小松市博物館研究紀要(23)

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

石川県に於けるゼフィルスの分布3

松井正人

本紙89号(1991年4月)に引き続き石川県のゼフィルスを紹介したい。なお、前回同様、同産地のデータは最も新しいものを採用し、メッシュ分布図については国土地理院の5万分の1の地形図を16等分して用いた。

8 ウラナミアカシジミ

金沢北部の津幡森本丘陵と、金沢南部の小松辰口丘陵から多くの産地が知られる。これは食樹のアベマキとクヌギの分布に起因すると思われるが、能登地方にも食樹は見られるものの、今のところ記録されていない。またコナラ食のものも近隣の富山県福光町長瀨峡²⁰³³から知られ、金沢市日尾の記録もおそらくコナラ食のものと思われる。全国的には普通種と思われるが、本県では少なく、また卵調査も困難な事から記録は少ない。加賀市の橋立丘陵(大聖寺⁹⁰⁶⁹作見⁹⁰⁰⁷)からも古い記録が知られるが、ここでは採用しなかった。

文献

1986年 5月 5日	津幡町下中	2幼	松井正人	
1986年 5月 5日	津幡町俱利伽羅	3幼	松井正人	
1973年 6月23日	津幡町俱利伽羅古戦場	1♂4♀	嵯峨井淳郎	1026
1986年 5月 5日	津幡町城ヶ峰	6幼	松井正人	
1985年 5月11日	津幡町大窪	3幼	松井正人	
1961年 6月21日	金沢市医王山小学校	1♂	桜井正喜	9018
1985年 4月28日	金沢市榎尾	1幼	松井正人	
1970年 6月21日	金沢市加賀朝日	1♂	嵯峨井淳郎	1024
1964年 6月23日	金沢市吉原	1♂	嵯峨井均	1024
1986年 5月 3日	金沢市曲子原	6幼	松井正人	
1971年 6月25日	金沢市四坊高坂	3♂1♀	嵯峨井淳郎	2005
1988年 5月 5日	金沢市松根	5幼	松井正人・他	
1985年 6月16日	金沢市松根口	1♂	松井正人	
1985年 4月28日	金沢市浅丘	4幼	松井正人	
1971年 6月26日	金沢市浅丘小学校		時国健太郎	1022
1972年 5月10日	金沢市地代	3幼	嵯峨井淳郎	2005
1985年 4月29日	金沢市中尾	4幼	松井正人	
1982年 6月 7日	金沢市釣部～柚木	1♂	中西重雄	2039
1979年 6月 日	金沢市南千谷	目撃	吉村久貴	2016
1957年 7月14日	金沢市日尾	1♀	今井宏三・他	1005
1976年 6月20日	金沢市北千石	6♂1♀	嵯峨井淳郎	2005
1986年 5月 5日	金沢市堀切	3幼	松井正人	
1958年 6月28日	金沢市鈴見	3頭	嶋本・内村	9005
1985年 5月 5日	辰口町湯屋	7幼	松井正人	
1984年 5月20日	小松市鶴川	4幼	松井正人・他	
1986年 5月 4日	小松市岩淵	5幼	松井正人	
1986年 5月 4日	小松市金平	2幼	松井正人	
1982年 6月10日	小松市東山	2頭	中山佐一郎	9104
1982年 6月21日	小松市木場	1頭	中山佐一郎	9104
1985年 5月 5日	小松市遊泉寺温泉	11幼	松井正人	

9 ウラクロシジミ

金沢市以南に広く分布すると思われる。能登では調査されていないが、最近特に卵や幼虫の確認例が増えている事から、能登での記録も期待されている。

			文 献
1990年 2月 4日	金沢市医王山	2卵	松井正人
1990年 4月 8日	金沢市医王山シガラ首	24卵	野中 勝 2085
1978年 7月 2日	金沢市医王山重山分岐	2♂	吉村久貴 2001
1990年11月18日	金沢市医王山夕霧峠	数卵	野中 勝・他
1978年12月10日	金沢市横谷	2卵	松本和馬・他 2003
1971年 6月19日	金沢市額谷	1♂	嵯峨井淳郎 2005
1957年 7月 1日	金沢市櫻見	1頭目撃	手塚正一 9015
1990年 6月30日	金沢市戸室新保	目撃	竹谷宏二
1978年11月18日	金沢市国見山	1卵	野中 勝 2005
1990年 3月25日	金沢市犀川ダム	1卵	野中 勝 2085
1978年12月10日	金沢市順尾山	1卵	野中 勝 2005
1978年 6月12日	金沢市小原	2♂1♀	松井正人
1978年 6月18日	金沢市倉ヶ岳	目撃	井村正行 2005
1971年 6月19日	金沢市大平沢	2♂	松井正人
1971年 6月 日	金沢市内川天池坂	1♂	時国健太郎 1022
1984年10月20日	鶴来町獅子吼高原	8卵	松田俊郎 2047
1988年10月16日	鳥越村鷺走岳	1卵	野中 勝
1981年 6月30日	吉野谷村瀬波谷		松田俊郎 2023
1990年 6月23日	吉野谷村中宮温泉	1♂目撃	松井正人
1971年 7月11日	吉野谷村中宮霧晴峠	2♂2♀	松井正人
1972年 7月22日	吉野谷村湯谷頭	1♂1♀	松井正人
1984年 6月14日	吉野谷村雄谷	1幼	松井正人
1985年12月 8日	吉野谷村雄谷入口	1卵	松井正人
1990年 7月29日	尾口村加賀禪定道	数♂1♀目撃	松井正人
1966年 7月28日	尾口村岩間温泉	1♂	嵯峨井淳郎 2005
1982年 7月 3日	尾口村中の川	1♂目撃	松井正人
1986年11月 2日	尾口村鴉ヶ谷	1卵	松井正人
1978年 6月18日	白峰村桑島	目撃	井村正行 2005
1990年 7月28日	白峰村砂御前山	目撃	竹谷宏二
1977年 7月 3日	白峰村三ツ谷	1♂	松井正人
1990年11月11日	白峰村大杉谷	多数卵	上田 昇
1984年11月10日	白峰村白山釈迦林道	4卵	松田俊郎 2051
1981年 7月 7日	辰口町仏大寺	1♂1♀	中山佐一郎 9104
1980年 6月24日	小松市鞍掛山	1♂	中山佐一郎 9024
1984年 6月 2日	小松市丸山石滝橋	1幼	松井正人
1982年 6月 8日	小松市岩倉山	2♂1♀	中山佐一郎 9104
1982年 7月10日	小松市中ノ峠	1♀	中山佐一郎 9104
1984年 6月22日	小松市動山	1♀	中山佐一郎 9104
1983年 6月30日	山中町我谷	目撃	竹谷宏二 2050
1978年 6月 9日	山中町山中温泉	1♂	松本和馬 2001

《 参考文献 1 》

1000～1099)石川県虫の会の「とっくりばち」を示し、下2桁は号数を示す
2000～2099)百万石蝶談会の「翔」を示し、下2桁は号数を示す

10 ウラミスジシジミ

金沢市以南山地に広く分布すると思われる。県内での人気はそれほど高くない、積極的に調査されていない。また能登ではほとんど調査されていない。

文献

1972年 6月24日	金沢市キゴ山	2頭	松井正人	
1982年 4月29日	金沢市医王の里	1幼	松井正人	
1990年 2月 4日	金沢市医王山	5卵	松井正人	
1978年12月10日	金沢市横谷	数卵	野中 勝	2003
1989年10月29日	金沢市熊走	3卵	井村正行・他	
1990年 6月30日	金沢市戸室新保	目撃	竹谷宏二	
1978年 7月 2日	金沢市国見山	1頭	野中 勝	2005
1982年11月14日	金沢市犀川ダム	1卵	野中 勝	2036
1978年 6月24日	金沢市住吉	4頭	野中 勝	2005
1988年10月 2日	金沢市順尾山	1卵	野中 勝・他	2075
1980年10月23日	金沢市倉ヶ岳	4卵	諸道秀人	2020
1980年11月30日	金沢市大平沢そら山	6卵	松井正人	
1982年 4月 7日	金沢市平栗	幼虫	嵯峨井淳郎	2030
1984年 9月 5日	金沢市婿杉	1頭	澤田 博	
1979年 2月 4日	鶴来町獅子吼スキー場	10卵	野中 勝	2006
1981年 1月15日	鶴来町獅子吼高原	2卵	諸道秀人	2020
1980年11月 9日	鳥越村杖川	1卵	松井正人	
1984年12月 1日	鳥越村大日ダム	4卵	松田俊郎	2051
1988年10月16日	鳥越村鷲走岳	1卵	野中 勝	
1981年11月29日	吉野谷村高倉山	6卵	松井正人	
1981年 6月30日	吉野谷村瀬波谷		松田俊郎	2023
1984年12月31日	吉野谷村中宮スキー場	数卵	野中 勝・他	
1985年 2月 8日	尾口村一里野スキー場	3卵	野中 勝	2051
1978年 8月15日	尾口村新岩間温泉	1♀目撃	松井正人	
1972年 8月 日	尾口村白山岩間		澤田 博	9011
1985年 1月15日	白峰村小豆峠	3卵	中西重雄・他	
1980年 9月28日	白峰村大杉谷	3卵	松井正人	
1984年11月18日	小松市大山	1卵	松井正人・他	
1981年12月 6日	小松市大日ダム	6卵	野中 勝・他	2027
1981年12月 日	小松市大日川ダム	11卵	嵯峨井淳郎	2027

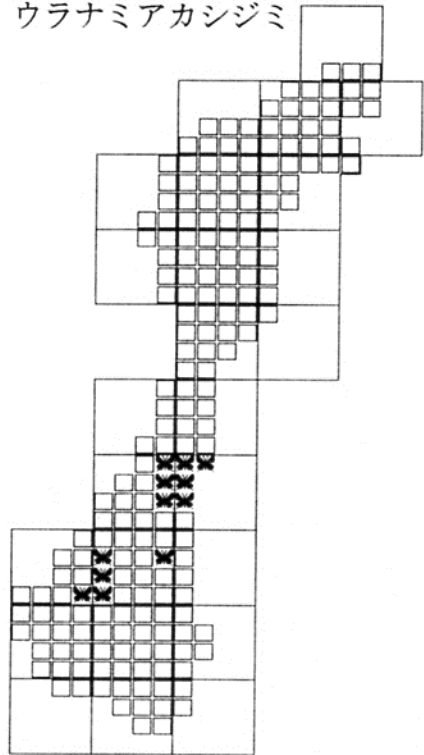
《 参考文献 2 》

- 9005) 武藤 明(1959) 金沢附近の蝶数種について 新昆虫 12(5/6):40-41
 9007) 小坂 巖(1954) 石川県の蝶について 新昆虫 7(2):46-47
 9011) 武藤 明(1974) ゴマシジミ石川県で採集さる 蝶と蛾 25(1):28
 9015) 武藤 明(1958) 石川県の蝶 新昆虫 11(3):39-40
 9018) 武藤 明(1965) 石川県のチョウとトンボの新資料 生物研究 9(3・4):43
 9024) 中山佐一郎(1981) 小松市とその周辺のチョウについて 小松市立博物館研究紀要(18):1-26
 9052) 桜井正喜(1962) 医王山の融:1-6
 9069) 武藤 明(1971) 石川むしの会特別報告(2)
 9104) 小松市博物館(1987) 小松市博物館所蔵品目録(4):37-57

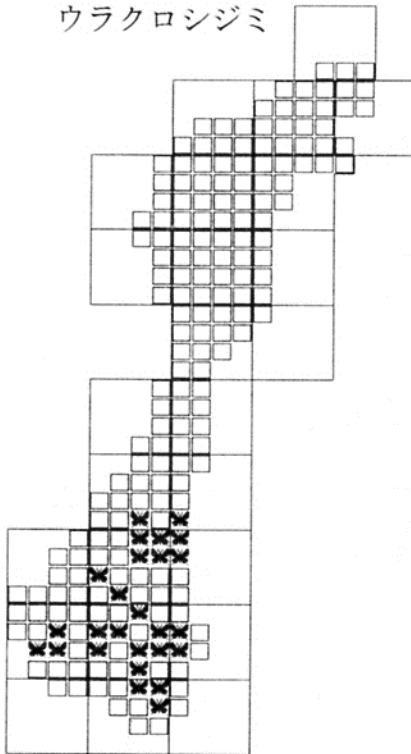
5万分の1地形図名

			珠洲岬
		輪島	宝立山 能登 登田
	剣地	穴水	宇出津
	富来	七尾	小瀬 口戸
		氷見	蛇ヶ島
	津幡	石動	
	金沢	城端	
小松	鶴来	下梨	
大聖寺	白峰	白川村	
永平寺	越前山	白山	

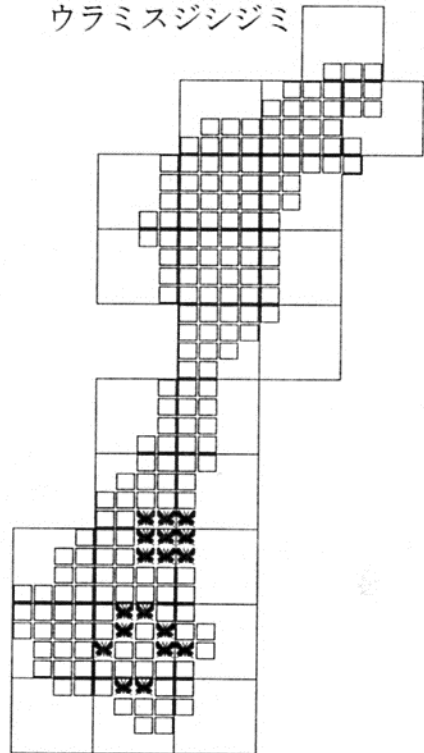
ウラナミアカシジミ



ウラクロシジミ



ウラミスジシジミ



《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

フジミドリシジミの採幼について

勝海雅夫

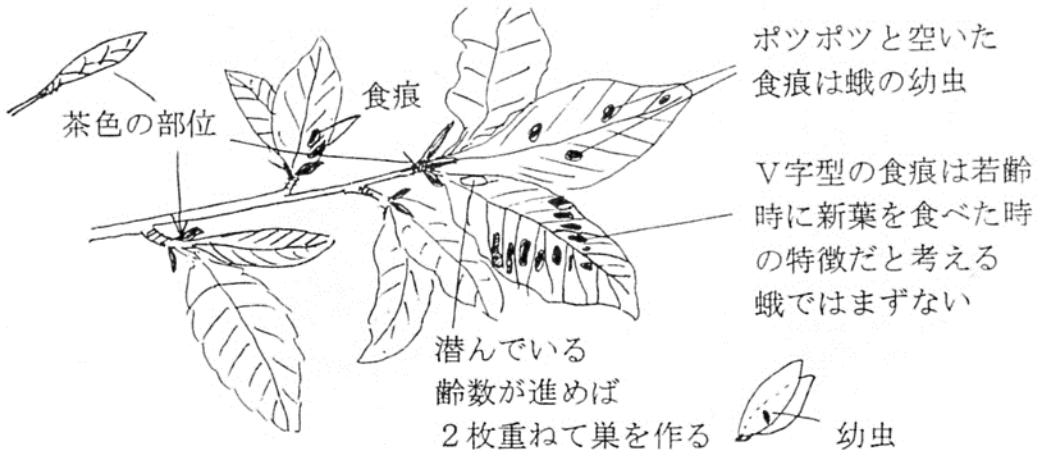
金沢市医王山での採卵については、今冬かなりの成果が上げられたようですが、採幼に関してはあまり実施されていないようなので、ここに報告させていただきます。

5月に入ってから寒波襲来により、各地の高い峰々には積雪が少なからずあったようです。医王山においても、1～2センチの積雪が頂上付近にて見受けられました。林道はアイノのポイントまでしか車が行けず、そこから歩いて行くこととなりました。今冬のフジミドリ採卵ポイントにて採幼することにし、まずフ化殻を捜してから幼虫を見つけだすことにしました。コツが分からないのがやっかいな点で、1～2時間捜してもフ化殻すら発見することができないのに加えて、11月末の気温です。「も～イヤ・・・。」昼過ぎに谷へ張り出した、おいしそうな小枝を引き寄せて裏返してみれば、「オットーきてます。きてます。」やっとのことで1卵フ化殻を見付けだし、フ化殻より2つめの枝に食痕を認め、葉柄の基部に3齢幼虫を見付けることができました。ただ、その付近にはその幼虫のみしか発見できず、場所を変えることにしました。

今度は、奥医王の登山道から富山県側のブナ林を捜してみることにしました。ラッキーにも最初の1枝より発見し、気を良くしました。食痕は下から見上げれば見つける事ができ、蛾の幼虫のものも見られますが、慣れてくればフジミドリのそれと区別することができます。

マメザクラが咲いていたので、メスアカミドリシジミも狙いましたが、全くのスカでした。ウラクロシジミは2幼見つけることができました。これは簡単です。フジミドリは結局6幼止まりで下山しました。本当に寒い1日でした。

フジミドリシジミ 1991年5月3日 金沢市医王山 6幼(2～3齢)
ウラクロシジミ 1991年5月3日 金沢市医王山 2幼(3齢)



《かつみ まさお 〒921 金沢市西金沢新町6番》

マレーシアの蝶についての報告(VI) :

第3回マレーシア採集コース概略 指田春喜

昨年末から年始(1990年12月27日~1991年1月7日)にかけて、マレーシアで3度目の蝶類の採集を行ったので、その採集旅行の概略を報告したい。

これまでの2度の経験でマレー半島の採集地について、おおよその事は把握できていたし、東海岸および高地は雨季のため採集に不適であることなども分かっていた。そこで今回は、とくに半島の西海岸沿いの平地の採集地を自分で見付けることを念頭においた。そして、12月28日より1月6日までの10日間、毎日午後3時まではネットを振れるようにスケジュールをたて、長距離の移動にはなるべくバスを利用するよう心がけた。

なお、この時点での通貨のレートは、1US\$=135円=1.72S\$=2.60M\$、つまり1S\$(シンガポールドル)=約78円、1M\$(マレーシアドル)=約52円であった。(1990年12月)

《 1990年12月27日 》

名古屋空港 $\frac{\text{シンガポール航空}}{8.5\text{h}}$ シンガポール・チャンギ空港 $\frac{\text{タクシー}}{0.5\text{h}, 13.0\text{S}\$}$
 — シンガポール中心街 $\frac{\text{タクシー}}{1.0\text{h}, 30.0\text{S}\$}$ マレーシア・ジョホール・バル(J.B.)

■ホンコンホテル: エアコン、水シャワートイレ付、40.0M\$

名古屋空港を正午に飛び立ち、タクシーを乗りつぎ、J.B.の繁華街のど真中にある、あまりきれいとは言えないホテルに着いたのは午後10時過ぎであった。この間にシンガポール入国、1時間後に出国、そしてマレーシアに入国した訳だが、その手続き、税関通過、両替、おまけにタクシーやホテルの価格交渉と、夜の異国でまさに気の休まる時がなかった。

《 12月28日 》

J.B. $\frac{\text{タクシー}}{1.5\text{h}, \text{往復}65.0\text{M}\$}$ グヌン・プライ

J.B. $\frac{\text{乗合タクシー}}{3.5\text{h}, 24.0\text{M}\$}$ スガマツト

■大亜ホテル: エアコンなし、水シャワートイレ共同、14.0M\$

グヌン・プライ山麓には小さな滝があり、周辺の少し開けた場所では午後オオイナズマの仲間が見られた。しかし、良いポイントを見付けられないまま、迎えのタクシーが来てしまった。山頂までクルマで行くことも可能と思われるが、採集には林内の別の小路を歩いた方がもちろん良い。

《 12月29日 》

スガマツ $\frac{\text{バス}}{1.0\text{h}, 1.7\text{M}\$}$ グヌン・レダン登山口 $\frac{\text{乗合タクシー}}{1.0\text{h}, 3.0\text{M}\$}$ スガマツ —
 $\frac{\text{バス}}{2.5\text{h}, 5.5\text{M}\$}$ セレンバン

■カールトンホテル:エアコン付、バストイレ付、28.3M\$

グヌン・レダン(Mt.Ophir 1, 276m) 山頂でデアラス・シンガプーラが採れているとのことで訪れてみたものの、登山口から山頂まで6時間ぐらいかかるとの由、また宿泊施設もなく(山頂を目指していたシンガポールから来た学生の談)、もちろん私はあきらめた。下の方はあまり採集に向かない。

《 12月30日 》

セレンバン $\frac{\text{タクシー}}{0.5\text{h}, \text{往復}30.0\text{M}\$}$ レンゲン

セレンバン $\frac{\text{バス}}{1.0\text{h}, 2.9\text{M}\$}$ クアラ・ルンプール (K.L.) $\frac{\text{夜行バス}}{9.5\text{h}, 23.5\text{M}\$}$ クアラ・ペルリス (K.P.)

グヌン・レダンで採集を終えて、その日のうちに夜行バスに乗るべく K.L.まで行くのはちょっとシンドイ。そこでその中間地点で無理やり採集地を見つけた訳だが、そんなところで簡単に良い採集地が見つかるはずがない。

《 12月31日 》

K.P. $\frac{\text{フェリー}}{1.0\text{h}, 10.0\text{M}\$}$ ランカウィ島・クア $\frac{\text{タクシー}}{0.5\text{h}, 10.0\text{M}\$}$ グヌン・ラヤ山麓 —

$\frac{\text{乗合タクシー}}{0.5\text{h}, 3.0\text{M}\$}$ クア

■マレーシアホテル:エアコン付、水シャワートイレ共同、14.5M\$

2年前の12月31日、やはりここグヌン・ラヤの山麓で採集した。(月刊むし、NO.231, 1990)その時の思いが忘れられず、2匹目のドジョウを狙って当地を訪れたが、期待は見事に裏切られた。あの山麓のジャングルは「開発」という名のブルトーザでズタズタにされ、無残な山肌を見せていた。チキショー!

《 1991年1月1日 》

クア $\frac{\text{タクシー}}{0.5\text{h}, \text{往復}20.0\text{M}\$}$ ドリアン・ペランギン

クア $\frac{\text{フェリー}}{1.0\text{h}, 10.0\text{M}\$}$ K.P. $\frac{\text{乗合タクシー}}{2.0\text{h}, 9.0\text{M}\$}$ アロー・スター・ $\frac{\text{夜行バス}}{\text{バスターミナル} 9.0\text{h}, 20.0\text{M}\$}$ K.L.

あのグヌン・ラヤの山麓がダメであるなら、ランカウィ島に来た意味は全くなかった。しかたなく当地を訪れたが、オビクジャクアゲハには2度逃げられるし、見られる蝶も一般に汚損個体が多かった。

富山県でオオオサムシを採集

野 中 勝

オオオサムシ(*Carabus dehaanii*)を、これまで記録の存在しなかったと思われる富山県で以下の如く採集したので報告する。

1991年5月18日 富山県福光町刀利ダム(標高400m) 1♀ 野中 勝

道路上を歩行中のものを採集した。末筆ながら、富山県での記録の有無について御教示下さった高野敏明氏に感謝したい。

《のなか まさる 〒920 金沢市末町14-70-2》

シリグロオオケシキスイの記録

井 村 正 行

シリグロオオケシキスイ(*Oxycnemus lewisi*)は大変美しい種で、採集記録も数例なので報告する。本種は野中 勝氏の石起こし採集によって得られたもので、標本を快く譲って頂き、本紙に発表することにも承諾して頂いた氏には大変感謝している。

1981年6月6日 白峰村市の瀬 1頭 野中 勝

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

アサギマダラの涙

松 井 正 人

アサギマダラのマーキングをされていて気付いた事がある。翅にマークしている時に、アサギマダラが涙を流すのである。涙といってもあの大きな目から流れるのではなく、翅の付け根、肩とでも言うのか、その片方に表面張力でまんまるになった、きれいな水玉が出てくるのである。

はたしてこの水玉がポロンと大きいまま出てくるのか、小さなものがじょじょに大きくなるのかは観察していないが、たしかにアサギマダラには大粒の涙がキラリと片方の肩に光っているのである。この無色透明の液体を撫でて指に付けると、アサギマダラ特有の強い匂いがした。

この涙が雄、雌どちらも出すものなのか記録していないが、「未交尾雌しか出さないのでは」と考えが飛躍するのは、オジサン特有のものだろうか。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

《 1月2日 》

K.L. $\frac{\text{バス}}{1.0\text{h}, 1.2\text{M}\$}$ テンプラ・パーク — K.L. $\frac{\text{夜行バス}}{7.0\text{h}, 16.0\text{M}\$}$ J.B.

2日続けての夜行バスはさすがに辛かった。K.L.郊外のテンブラ・パークでとにかくネットを振ったが、とても炎天下では身体がもちそうになかった。公園内は管理が行き過ぎてはいるが、それでもキシタ、オビクジャク、そしてシロオビワモン等も見られ、蝶影は少なくなかった。わざわざ予定に入れるほどの採集地ではないが、K.L.郊外では当地以外に適当な場所はないと思われる。

《 1月3日 》

J.B. $\frac{\text{バス}}{1.0\text{h}, 2.0\text{M}\$}$ コタ・ティンギ $\frac{\text{タクシー}}{0.5\text{h}, \text{往復}20.0\text{M}\$}$ ジェyson・ベイ

■シン・メイ・チュンホテル:エアコン付、水シャワートイレ付、32.0M\$

当地はジョホール州コタ・ティンギ郊外の採集地として、一部の虫屋達には知られている。しかし、1月3日に私が出かけた時は、時期が悪かったのか、はたまた腕が悪いのか、めぼしい獲物はなかった。セセリの好採集地のはずなんだがな〜。

《 1月4日、5日、6日 》

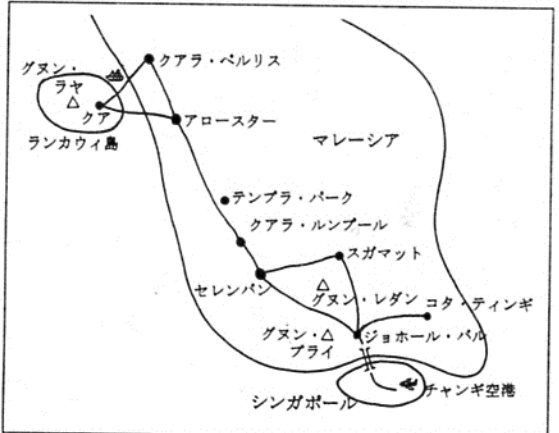
コタ・ティンギ $\frac{\text{タクシー}}{0.5\text{h}, 8.0\text{M}\$}$ 13マイル・ポイント

ここへは3日間通った。オオイナズマの大珍品レキシアス・キャニパルダスが4匹採れたからに他ならない。この時の詳細は別に近く報告の予定である。

《 1月6日 》

コタ・ティンギ $\frac{\text{バス}}{1.0\text{h}, 2.0\text{M}\$}$ J.B. $\frac{\text{バス}}{1.0\text{h}, 1.9\text{M}\$}$ シンガポール中心街 —
 $\frac{\text{タクシー}}{1.0\text{h}, 10.0\text{S}\$}$ シンガポール空港 $\frac{\text{シンガポール航空}}{1月7日 8.5\text{h}}$ 名古屋空港

マレーシア入国の時は夜も遅かったので、足もとを見られているのを承知でタクシー代30S\$を受け入れた。こいつがしゃくだったので、帰りは地元の人達がするようにバスにしたのはいいが、あいにく日曜日の夕方物凄い混雑。でっかいザックを背負って満員バスに乗ったり、降りたりしながらの出国、入国手続きに汗ビッショリ。ああ、やっぱりタクシーにすべきだった。



《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

会員の動き。しゃばの動き

●松井氏宅で網を張った小屋作りが始まったのを見た近所の人々、「あの小屋でどんな虫を飼うのだろう」と興味津々。噂うわさの花盛り。ところが小屋からは、コケッココと聞こえてきたのであった。

●近藤氏、趣味の山野草が高じ、大学をやめフリーとなる。現在バイオ関係の企業から声がかかっているが、フィールドが好きなので決めあぐねている。

●4月4日嵯峨井氏、好天続きに我慢しきれず休暇をとる。おきまりのポイントには、おきまりの舞姫達が、にぎやかに飛んでいた。

●4月7日指田氏、全国的な雨にもかかわらず、福井の清水町だけは晴れていたとか。おかげで88ヶ所で有名にもかかわらず、のんびり網が振れたとニンマリ。

●4月10日平栗はギフチョウならぬ蝶屋の乱舞。シーズンに入ってからのは休日は雨ばかり、明日からまた崩れるとあっては、平日にもかかわらず職場を抜け出す虫屋が後を絶たなかった。

●4月10日上田氏、最高の空模様に居ても立ってもいられず、昼休みにネットを忍ばせ二俣へ。30分程で満足して帰ってきた。

●吉村(兄)氏が減量に成功し、60kg台を維持しているのは知ってのとおりだが、今度は逆にあのヒョロリとした弟氏が太りだした。この分では直にアニキを追い越しそうで、今度会うのが楽しみである。

●4月13日佐渡支局長の菊地氏来沢。ギフチョウを見たことが無い氏は、早速平栗へと出かけたもののあいにくの雨。ところが遠来の客と知って知らずか、娘達は健気にも雨の中を飛びまわってくれたのだった。

●4月23日松井氏、白峰のギフを目指すが、第1ポイントは林道工事でつぶされ、第2ポイントは道をふさぐ残雪でたどりつけなかった。

●4月27日勝海氏、夫婦で仲良く採集旅行。狙いのヒメギフは1頭づつ採ったとかで、ネットの鬼も奥様の前では1歩控えるようですなあ。誰しも新婚当時はこうなのだが。

●4月28日竹谷氏、鶺鴒ヶ谷へ。ブナ林を抜け、トチノキ広場にたどり着くと、あたり一面にスギタニルリが舞っていた。

●5月5日河内村打尾にて、恒例の山菜テンプラパーティー。午前中に採った山菜を肴に昼からドンチャンやろうというこのパーティー、年々盛大になり、今年は神戸や中国からの参加もあり38人でにぎわった。

●5月6日松田氏、内川ダム近辺でムカシトンボを撮影。このトンボ午後になったら飛ばなくなるのか、途端にいなくなった。それにしても写真集のおかげで、蝶以外の虫も見えてきたとか。

●5月11日嵯峨井氏、板尾へ。もちろんミーカラアゲハだが、今年は少ないとか。ボロもいるから時期は合っているはずなのに、去年の大乱舞は夢のまた夢だとか。

5月12日野中、中西、上田のカタバロ組、中宮、岩間のヤマシャクポイントを見回るが、未だ蕾だった。

5月15日大日ダムのヤマシャクは今は盛りの大花盛り。再び仕事をさぼった上田氏は、フタスジカタビロを握ってニッコリの連打。

5月19日農業試験場で放蝶。自動温度調節機能付温室の開所を祝って温室内に放たれたが、室温の上昇に伴って天窓が開き、蝶はすべて飛び去ったとか。300頭程放されたらしいが種名と出所は不明。

5月20日指田氏、単身美女平に乗り込んだものの、残雪の多さに恐れおののく。あきらめ気分が漂いかけた頃、たくましくもギフチョウが飛んできたのであった。

6月1日小松ー沖縄便が就航。大人片道34,650円、往復62,540円。
小松 16:05→那覇 18:30
那覇 13:05→小松 15:25

例会の記録

4月5日(金)城南管工2Fにて8時より開催。今回は、初御目見えの2人がいたことから、久しぶりに自己紹介から始まった。続いては本題のスライド選考会。冬の部としてノミネートされた140点程を映写し、今後の方針を検討したが、個々のイメージが大きく食い違い、カンカンガクガクの論争となった。

参加は、野中、指田、田辺、佐藤、山岸、吉村兄弟、中西、左合、竹谷、近藤、井村、小幡、松井夫妻の15人。

目次

野中 勝：イモンチョウとアマイモンジの蛹の体色について	1
松井正人：金沢城址でミスジチョウの越冬幼虫を確認	2
松井正人：石川県に於けるゼフィルスの分布3	3
勝海雅夫：フジミドリシジミの採幼について	7
指田春喜：マレーシアの蝶についての報告(VI)：第3回マレーシア採集コース概略	8
野中 勝：富山県でオオオサムシを採集	11
井村正行：シリグロオオケシキスイの記録	11
松井正人：アサギマダラの涙	11
編集部：会員の動き・しゃばの動き	12
編集部：例会の記録	13

とぶ NO.90

1991年6月7日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所